

全国奉仕活動・体験活動推進協議会（第2回）議事概要

1. 日時：平成15年5月6日（火）14：00～16：00

2. 場所：文部科学省分館601会議室

3. 議事：連携事業・連携施策紹介
自由討議

4. 配布資料

資料1 全国奉仕活動・体験活動推進協議会の開催について

資料2 奉仕活動・体験活動関連連携事業・連携施策

資料3 （社）日本青年奉仕協会

・青年長期ボランティア計画 募集チラシ

資料4 （財）さわやか福祉財団

・ふれあいボランティアパスポート（15年度版）

・がんばれ！ヤングボランティア

・ふれあい手帳（シール）の手引き

（参考資料）

○（財）勤労者リフレッシュ事業振興財団

・パンフレット「会社・人・社会をリフレッシュ」

○（社）全国森林レクリエーション協会

・森林インストラクター案内

・「子ども樹木博士」認定活動

・森林活動ガイド

○（社）日本経済団体連合会

・ワンパーセントクラブニュース（63 2003.春）

・「2001年度社会貢献活動実績調査結果」要約

○（社）全国学習塾協会

・活動案内

・定款

・学習塾業界における事業活動の適正化に関する自主基準

・教育改革対策の経緯について

・週休2日制実施に関する意識調査について

○子どもの水辺サポートセンター

・子どもの水辺サポートセンターの活動状況について

・活動事例の紹介

○川に学ぶ体験活動協議会

・パンフレット「川で遊ぼう！川に学ぼう！」

・RAC活動概要

・ニューズレターVOL.1、VOL.2

・川の指導者養成講座実施例（茨城県藤代町、小貝川）

- 農林水産省
 - ・農業体験学習ネット
 - ・小・中学校における農業体験学習の実施状況
- 林野庁
 - ・国有林の森林環境教育プログラム―北から南まで大紹介―
- 林野庁、文部科学省
 - ・「森の“聞き書き甲子園”」公開フォーラム
- 国土交通省
 - ・子どもの水辺サポートセンター
 - ・世界子ども水フォーラム
 - ・海とみなとの相談窓口
- （社）日本青年奉仕協会
 - ・青少年のボランティア活動が広がっていく
 - ・子どもたちのボランティア活動地域支援モデル開発普及事業 事業報告書
- 社会福祉法人全国社会福祉協議会
 - ・奉仕活動・体験活動の参考になる図書等
- 全国農業協同組合中央会
 - ・子ども農業体験学習推進フォーラム2002資料集
- 文部科学省社会教育課
 - ・全国奉仕活動・体験活動推進協議会情報ホームページ
 - ・全国体験活動ボランティア活動総合推進センターホームページ
 - ・全国体験活動ボランティア活動総合推進センターパンフレット
 - ・全国体験活動ボランティア活動総合推進センターリーフレット
 - ・都道府県・市区町村体験活動ボランティア活動支援センター等一覧
 - ・体験活動ボランティア活動支援センターの現状について

5. 議事概要

(1) 開会

(座長)

奉仕活動・体験活動の推進については、昨年度から重点的に取り組んでいる。現在、全国約800か所でその推進体制が整備されており、それらの具体的な活動を充実させることが今後の課題。

11月の第1回の議論を踏まえ、構成団体の追加を行った。新たに構成員となった団体は、(財)勤労者リフレッシュ事業振興財団、全国森林組合連合会、(社)全国森林レクリエーション協会、(社)日本経済団体連合会、(社)全国学習塾協会、子どもの水辺サポートセンター、川に学ぶ体験活動協議会の7団体。よろしく願いたい。

○新たに構成員となった団体から取組紹介

((財)勤労者リフレッシュ事業振興財団)

厚生労働省からの委託事業で勤労者マルチライフ支援事業を平成13年度から実施。勤労者のボランティア活動への参加意欲の喚起、活動への参加のきっかけづくりを目的とし、勤労者とボランティアを結び付けていこうと活動している。

(全国森林組合連合会)

森林環境教育の分野で連携を図れると思う。

（（社）日本経済団体連合会）

企業の社会貢献活動を推進するため、社会貢献推進委員会と、実践するワンパーセントクラブを設け、車の両輪として機能している。社会貢献活動は、「寄付」「各企業の自主プログラム」「社員のボランティア支援」の3本の柱で実施し、FAXニュースやホームページで取組を紹介している。また、「社会貢献実績調査」を1990年から毎年実施している。2001年度調査結果では「社員のボランティア活動に対する支援」を実施している企業は68%で、年々増加している。

（（社）全国学習塾協会）

学校週5日制が導入され、学習塾に子どもが押し寄せるのではないかとマスコミ等から期待されたが、実際はさほど変わらなかった。昨年、子どもたちの土曜日の過ごし方を調査したところ（「週休2日制実施に関する意識調査について」）家でごろごろしている子ども、何もしないでゆっくりしたいと考えている子どもが多かった。学習塾は、勉強するだけでよいと考えているわけではない。できるだけ協力していきたい。

（子どもの水辺サポートセンター）

平成14年7月に、文部科学省、国土交通省、環境省の3省連盟により設立。「子どもの水辺」の指定、そこに集う子ども達の体験活動の支援、市民団体同士のネットワーク構築を図ることが、活動の主な柱。各地域に協議会があり、各地方の教育委員会、市民団体、行政が相互に連携を図っていこうという取組をしている。サポートセンターが何をすべきかという視点だけではなく、サポートされる側である学校、教育委員会、市民団体等による「サポーターの会」を置き、そこで毎年の事業計画を提案してもらっている。サポーターが自分達で独自運営していく組織にしたいと考えている。

（川に学ぶ体験活動協議会）

川を通じての社会貢献活動を全国的に広めていくことにより、子どもたちの人間性の回復と水環境の保全を進めている。構成メンバーは全国で100団体程度。川での指導者育成を3年前から実施。基礎講座、初級講座、中級講座があり、全国共通の内容と各地域に即した内容で実施。従来、川は遊びの場だったが、川で自分達が社会貢献できるという期待と自信を持ち始めているという感想を持った。

○事務局から、資料確認と、全国的な推進体制の整備状況について説明

・全国体験活動ボランティア活動総合推進センター

体験活動やボランティア活動に関する情報や資料等の収集・提供を主な役割とし、情報提供のためのホームページを開設。今後情報の充実を図り、国レベルでの動きが見えるものとしていきたい。各府省や構成団体等が開催するイベントなど、様々な機会を通じてPRしたい事項があれば、積極的に御活用いただきたい。

・都道府県の支援センター

「生涯学習センター等の連携方策に関する調査研究」（平成14年度 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター）（報告書作成中）は、都道府県・政令指定都市が設置する生涯学習センターの中に開設されている体験活動ボランティア活動支援センター、全25か所を対象とした調査。その結果によると、

- ア. 主な課題としては「他の機関や部局との連携調整や情報の共有が十分ではない」、「活動を行う団体等の情報が集まらない」など。
- イ. 行政部局・機関との連携状況については、教育関係機関との連携が中心。
- ウ. 連携部局・機関が2機関以下のセンターが半分程度ある。
- エ. 連携内容については、「活動の場や人材確保に関する情報の共有化」、「広報・啓発活動に関する連携」が中心
- オ. 連携団体については、ボランティア団体や福祉関係団体が主だが、進んでいないところが多い。

活動を推進する上で連携協力は重要な課題。団体サイドからも、それぞれの活動についての積極的なPRや情報提供をお願いしたい。また、各団体の地方支部や関係団体、傘下の団体にも、都道府県・市町村の支援センターの機能についてのPRをお願いしたい。

（２）連携事業・連携施策の紹介

新規拡充事業を中心に、各団体・省庁から説明

（警察庁生活安全企画課）（資料２〈４〉）

地域社会における少年問題への無関心をくいとめ、増加傾向にある少年犯罪の発生を抑止することを目的として、全国のモデル地区約20地区で、地域青年層の活力導入のためのパイロット事業を実施。具体的には、街頭犯罪防止のための「目に見えるパトロール活動」、非行少年を対象とした勉学支援、就職支援等の「継続的な指導・支援活動」、環境美化活動、社会奉仕活動等の社会参加活動などを、地域団体の青年部や大学生にボランティアとして参加してもらい実施する予定である。自治体や教育機関、保護司会、ボランティア関係団体等から、情報の共有化、イベント等の共催・相互支援の点で協力いただきたい。

（文部科学省児童生徒課）（資料２〈10〉）

「豊かな体験活動推進事業」を平成14年度から実施。全国101地域・758校を指定して様々な活動をモデル的に実施し、そこで得られる成果を全国的に波及させる。また、今年度から「地域間交流推進校」を設け、地域間交流プログラムの開発を進めている。モデル的に実施し、教育課程上の位置づけや実施上の工夫点などの成果をとりまとめ、他の学校に参考資料として提供する。遠出のスタイルでは、受入体制の整備と、それを学校にどのように情報提供していくかということが重要な課題で、関係の皆様方の御協力を賜りたい。

また、全国600弱の小・中・高等学校を対象に、体験学習の実施状況を取りまとめた。平成12年度と比べて時間数が相当に増加している。また、小・中・高等学校それぞれに特色があり、小学校では自然に親しむ体験活動、中学校では第3次産業に関する体験活動、高等学校では学科の特色に応じた活動が中心となっている。小・中学校は14年度から、高等学校は15年度から学習指導要領が変わり、教育課程上での位置づけが明確にされた。小・中学校では総合的な学習の時間を活用する傾向が見られ、高等学校でも今後変化が見られるのではないかと考えている。

体験活動は、関係の皆様方の協力があってうまくいくものだと思うので、御支援お願いできればと思う。

（林野庁計画課）（資料２〈24〉）

高校生を対象に「青年森林協力隊活動推進事業」を15年度から新規実施。「地球温暖化防止森林吸収源10カ年対策」の柱の一つとして「国民参加の森林づくり」を進めており、その取組の一環として実施。夏休みを中心として、合宿形式で、下刈、枝打ち等の作業を行う他、専門家を講師として招き森林の働きについて学習する。都道府県の林務部局を中心に教育関係者、NPO、森林組合等による実行委員会をおき、事業の計画や運営管理を行う。高校関係者の方に実行委員会へ参画してもらうなどの連携協力をお願いしたいと考えている。全国でモデル的に10か所、1か所あたりの参加者は60人程度で実施予定。

（国土交通省事業総括調整官室）（資料２〈27～30〉）

市民連携サポートセンターは、市民団体間で必要な情報を共有できる仕組みを構築するとともに、活動に必要な人材リストの提供や、行政と市民団体の間のコーディネート等を行う。

地域で活動している団体に「こういうところと連携しましょう」というと、中央省庁間では連携が図られているかと聞かれる。本日の会議を通じて連携や情報交換していると説明できることが、地域の市民団体が安心して参画できることにつながるという話もある。

国土交通省としても、様々な機関や市民団体と連携し、協力を得てやっていきたい。子どもの水辺サポートセンター等についても、文部科学省や環境省と最大限積極的に連携していきたい。

「世界子ども水フォーラム」は、昨年3月、京都、滋賀、大阪の3会場で開催し、世界の子ども達109名が、水についての情報交換や意見交換を行った。自分達にどのような行動が可能かを考える時間を設け、また、世界子ども水フォーラムの後に自分達に何ができるかを話し合った。

(国土交通省交通消費者行政課)(資料2 <25>)

海辺の自然学校は、干潟や砂浜等の自然環境を活用した体験学習を通じて、環境への理解の向上を図ることが目的。地元の地方公共団体、教育委員会、観光協会、市民団体等と連携している。今年度から全国展開し、全国10か所、1か所の募集人員は30人程度で実施予定。また、パンフレット「海と港の相談窓口」を配布しているが、相談窓口を地方整備局やその出先の関係機関全国94箇所に設置し、海や港に関する相談対応を行うことにより、地域密着の行政を図っている。

(中央青少年団体連絡協議会)(資料2 <35>)

ボランティア活動「体験交流スタディーズ」について、今年度は全国12か所で、それぞれ小・中・高生50人を集め、「見つけよう、私にできること」をテーマに実施する。主な参加者は少年団体に参加している子ども達だが、一般の子ども達も募集し、教育委員会、学校、PTAなどと協力し実施したいと考えている。一番大事なことは、子どもの主体性を大事にしようということ。子ども達が、実施後に、自分達の地域で活動し、さらに仲間達に伝えていき、活動の輪を拡げるように導きたい。

(日本青年奉仕協会)(資料2 <36>)

全国各地の団体に、半年から1年の期間で各ボランティアを派遣している。目的は二つあり、一つはボランティア活動に従事すること。もう一つは、活動を通じて地域や社会におけるボランティアリーダーを育成すること。今年度は38か所へ41名を派遣した。日本ではこのような長期の活動は不足しており、今後も引き続き活動を拡げていきたい。全国各地の様々な機関・団体と連携をとって、例えば受け入れ先になったり、広報での連携を進めていきたい。

(さわやか福祉財団)(資料2 <37>)

「ふれあいボランティアパスポート」を、企業との協働により作成・配布している。子ども達は、30回のボランティア活動をシールを貼りながら記録し、達成すると、企業が環境ボランティア団体に寄付をし、全国に桜の木を植えることができるというシステムになっている。14年度は5千冊を小中学生に配布した。今年度は、昨年度のパスポートをもっと有効に使ってもらえるよう改定を行った。まず、三つ折でパスポートサイズにし、コストを1部10円程度に抑えた。また、児童生徒が達成感を早く得られるよう、記録回数を30回から10回に変更した。さらに、中高生になるとシールを貼ることをカッコ悪いと言う子もあり、今回はシールを使わなくてもよいようにした。このほか、寄付先を昨年の1か所限定から、3か所を選択できるようにし、国際・環境・福祉の3つのボランティア先に寄付をできるようにした。学校として選びたいところ、子ども達が選びたいところ、それぞれの意思が反映されるような形にした。財団で実施する場合は、寄付先はこちらで決めているが、各地でオリジナルを作りたいという場合は、手引きにも書いているが、地元の企業とか商店街、様々な団体等と協力して発行し、自分達の寄付したいところを寄付先として決めればよい。企業の社会貢献の気運も高まっており、企業からの協力が得られればこういった取り組みを拡げていけるのではないかと。今年度は1万冊作成する。興味があったら活用して欲しい。

(3) 自由討議

(農林水産省女性・就農課長)

平成14年度事業により、平成15年4月から「農業体験学習ネット」を立ち上げた。主な内容は、1. 農業体験学習受入先データベースの検索システム、2. 自らが実施者(支援者)となる人が登録できるシ

システム、3. 教師や指導者が活動の計画作りするときのマニュアルがついている、という3点。データ検索システムには、現段階で300弱の情報が掲載されている。宿泊、指導員、受入期間、雨天時の対応、費用等、計画するのに必要な情報を網羅している。また、「体験学習AtoZ」では、準備、計画、実施、支援体制まで、進め方や展開例を掲載しており、ぜひ活用してほしい。

(座長)

校長会では、どのような議論がなされているか。

(全国連合小学校長会)

各小学校とも、総合的な学習の時間を中心に、地域の人と人、学校と地域を繋ぐ努力しつつ、どのように推進していこうかと模索しているところ。

(全日本中学校長会)

毎年テーマを決めて調査を実施しており、平成13年度には「学校5日制下での奉仕・体験活動のあり方」について調査した。この会に出席して、様々な団体が様々な活動をしていることがわかった。各学校へ伝えていきたい。

(全国高等学校長協会)

文科省のデータにもあるように、高等学校が一番遅れていると感じている。新教育課程が今年度からの実施であることにもよると思う。と同時に、高等学校では、各教科科目との関わりで実施されているボランティア活動は、かなりレベルが高いと感じている。例えば、建築関係の工業高校で、地域の高齢者の家の補修をするなど、専門性を活かしながら活動している例もある。こういう活動が盛んになると思う。

(全国特殊学校長会)

盲、聾、養護学校の校長会。「総合的な学習の時間」が実施される前から、体験学習は積極的にやっている。交流や社会参加、自立等を念頭に置きながら、積極的に実施していきたい。近々、全国の代表が集まるので、今日のような情報は大変ありがたい。学校教育だけでなく、放課後や長期休業中に、障害を持つ人達が、どのように地域で活動できるかが一番の大きな課題。意図的に地域活動を広げたり、障害を持つ人達のためのボランティアリーダーを育成するなど、活動の輪を広げていきたい。

(国立大学協会)

今、大学に対する社会的要請が分裂している。知識教育の一方、体験的な能力の低下も言われている。大学全体としてどう対応するか、方向性は一貫していない。

(全私学連合)

現場の情報は持ち合わせていない。今後の課題と考えている。

(全国学習塾協会)

「週休2日制実施に関する意識調査」の結果について。昨年の夏休み時期に、全国の、塾に通う生徒1万人にアンケートを実施した。「土曜日が毎週休みになってどう感じるか」については、全般的に、「楽になった」と感じている子どもが多い。「土曜日はおもにどのように過ごしたか」については、「研修や体験学習」「ボランティア活動」をした子どもは全体の約1%。「土曜日や日曜日に、家では主に何をしたか」については、「テレビ見ている」「趣味に関すること」が多い。今年度も同じ時期に調査して、子ども達がどのように動いているか調査したい。

学校完全週5日制の実施に対応して、文部科学省からも、放課後・週末の支援について依頼された。しかし、なかなか話がスムーズに進まず、「教育委員会と話そうキャンペーン」を実施し、学習塾と教育委員会の垣根を越えて協力させてもらいたいと提案している。我々はやる気はある。土曜日には学校の設備を貸していただき、我々が、勉強や体験活動、地域と協力した活動を行うこと提案している。しかし、なかなか具体的な話、実行段階の話に移らない。今日の会議の資料を基に、全国の会員に、協力できる活動があればどんどん教育委員会に行き、協力させてもらうように動くことを呼びかけたい。お互

いの垣根を越えて、子ども達のためになることをやりたいと考えているので、全国の学習塾協会の会員へも声をかけてほしい。

(日本PTA全国協議会)

PTAでは、活動実践事例集を作成・配布している。

(中央青少年団体連絡協議会)

中青連が3500人位の子どもを対象に調査を実施した。ボランティア活動を始めのきっかけとして最も多いのが、「父親・母親がボランティア活動に参加しているから」というもの。2番目が「自分から」。3番目が「先生から」。大人が地域や家庭でその姿勢を見せることが、子どもの自発的な活動につながる。

(日本経済団体連合会)

企業における社員の活動支援に関しては、ボランティア休暇制度を設けたり活動の情報提供等、100社以上で実施している。最近は経済状況が厳しく社会貢献活動への支出額は減っているものの、社員のボランティア活動を支援する企業は増えている。有名な取組としては、富士ゼロックスの「端数倶楽部」、NECの「NECメイク・ア・ディファレンス・デー」など。課題としては、30代、40代の人々の意識をどう高めるかという点。青少年に対する体験学習・実験教室は様々な企業が実施しており、社員の専門性を活かしている。日本IBMが三鷹市と組んで、市内全小学校と家庭を結ぶブロードバンドを引いたり、リコーの「市村自然塾関東」など。

(さわやか福祉財団)

30代、40代の父親達をボランティア活動に引き出そうという取組として、今年度から「学校協力勝手連事業」として実施している。父親達の活動の対象は学区の子ども達で、父親たちが参加しやすい、子ども達の土曜・日曜活動プログラムをできるだけ多く提供できるよう取り組んでいる。今年度から3年間の計画で進めている。御協力いただきたい。

(全国社会福祉協議会)

市町村レベルでもこういった情報交換の場が必要だと感じている。社会福祉協議会では、全国の市町村にボランティアセンターがあり、学校と連携しながら福祉教育を進めている。様々な事業が展開されているものの、なかなか連携が取れていないと痛感している。教育委員会の理解をお願いしたい。また、教員が率先して体験することを奨励してほしい。

(座長)

奉仕活動・体験活動では、教員が子ども達にどのような姿を見せるかが大切。

(外務省技術協力課)

青年海外協力隊現職教員参加制度を昨年から実施している。昨年は63名、今年は57名が参加。従来は、技術を持っている人の応募が多かったが、最近は、文科系の職種の方の応募が増えており、それに応じた要請を開拓している。約2年間の経験を子ども達に話すことは、効果があると感じている。

(全国連合小学校長会)

青年海外協力隊は、先生が頑張っているのが見えづらい点もある。学校の先生が活動に携わっている姿を見せないと難しい。学校レベルで、校長の指導の下、先生が生徒とともに汗を流すことに力を入れるべき。土日の活動を手伝う教員も多くいるし、清掃活動等を地域で行う時にはそこに出かける教員もいるが、残念ながら全てではない。これからも、わが学校から、わが地域から進めていきたいと考えている。

(林野庁計画課)

「国有林の森林環境教育プログラム」という冊子を配布している。全国に森林管理署等は100余りあるが、1署1フィールド、1プログラムというスローガンの下、森林環境教育、体験学習のプログラムづくりを実施しており、その中から特に優良なもの22事例を選定している。長野県では、教職員を対象

とした森林教室を実施している。学校でも、こういったプログラムをぜひ活用してほしいし、連携をとりながらやっていきたい。

また、「森の聞き書き甲子園」実施している。森の名手・名人100人を指定し、そこへ高校生を送り込み、1対1で取材し、その結果をまとめて発表するもの。3月には公開フォーラムを実施した。今年も準備をしている。

(全日本中学校長会)

5日制が実施された時に、中学校としては「2日間は家庭に返す」ということで、部活も大会などはやってはいけないということだった。しかし、実際には運動部系は大会に参加しているし、先生は土日も活動している。5日制の趣旨や、土日をどう位置づけるかをきちんと押さえる必要がある。また、土日に奉仕・体験活動をどう取り入れるのかについては、中学校としての方向はまとまっていない。

(全国高等学校長協会)

高校もそう。私の学校では土曜日に進学指導をしている。子どもたちの体験活動をどう補うのか、もう一度5日制との絡みの中で考えないと、なかなかうまくいかない。全てを学校が引き受けるというのは本末転倒。土曜日の体験活動を学校がどこで引き受けるのかの整理をお願いしたい。

(座長)

皆様から貴重な御意見をいただいた。御発言を伺っている中で、子どもたち、大人、高齢者も含めて、それぞれの方々の活動に、それぞれの組織が時間的にも空間的にもぶつ切りで関わっていると感じた。新しい公共をどうやってつくっていくのか、いろんなセクターの方からの御発言、御指摘があったと思う。今日の御意見を踏まえて、皆様と相談しながら取組を広げて行きたいと思っているので、御支援・御協力をお願いしたい。本日はありがとうございました。

以上